

神楽坂大學講座

第181回 神楽坂まちづくりすまいづくり塾

神楽坂よもやま話シリーズ 第141話

江戸の履きだおれ—「粋」と履物

語り手：石井要吉（いしい ようきち）さん

創業明治43（1910）年の老舗「助六」三代目。昭和23（1948）年生まれ。
神楽坂通り商店会副会長、神楽坂かぐら連会長、神楽坂まちづくり興隆会事務局

開催日：平成29年 10月 6日（金）
19：00 ～ 21：00

会場：高齢者福祉施設「神楽坂」1階 地域会議室（新宿区矢来町104）
最寄り駅：東西線「神楽坂」（アユミギャラリー斜め前）

■ 「京都の着だおれ」「大阪の食いだおれ」。
それでは江戸は何と言ったでしょうか？
そう、「江戸の履きだおれ」。江戸の庶民は
それだけ「履物」に拘っていました。
宵越しの金を持たない江戸っ子にとって、
「粋を気取る」ささやかな方法は少し高価な
履物を買って求め、颯爽と履くことでした。

■ 江戸の「粋」を今も留めている神楽坂に店を
構える助六にとって、粋な履物とはどんなもの
なのか？
粋な履き方とはどんな履き方なのか？
粋な着物とのコーディネートポイントは？

■ 文学にも登場する履物の呼称についても、
実物をご覧いただきながら紹介します。
神楽坂に所縁の漱石や鏡花の小説の一節
が、過去にタイムスリップして、よりリアルに
感じられるのではないのでしょうか。

■ ご参加をお待ちしております。

■ 定員：約20名

■ 参加費：1000円

■ 主催：

NPO法人粋なまちづくり倶楽部

■ お問い合わせ

粋なまちづくり倶楽部 事務局

・電話 050-3558-6260

・メール：

ikimachi.setsume@gmail.com

・HP：<http://ikimachi.net/>

*予約は不要です。当日直接会場にお越し
下さい

